

保護者の皆様

大阪府立豊中支援学校

校長 上田 敬三

准校長 森本 裕

令和7年度 学校教育自己診断集計結果について(報告)

日ごろより、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、昨年12月に実施しました学校教育自己診断アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。集計結果と考察を以下のとおりご報告いたします。また、児童・生徒代表委員会が実施している「学校についてのアンケート」についても併せてご報告いたします。

資料として、「令和7年度 学校教育自己診断 保護者・教職員集計 評点順一覧表」と「令和7年度 生徒向け学校生活アンケート 評点順一覧表」も同時に配信していますので、ご覧ください。なお、昨年度より、保護者の皆様にはマチコミアンケート、教員及び生徒については Google フォーム(タブレット端末やパソコン機器等を使用)でのアンケート実施としています。

1. 評点の計算方法について

A:よく当てはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:全く当てはまらない

計算式 → $\{(A \times 3) + (B \times 2) + (C \times 1)\} \div (\text{回答実数} \times 3) \times 100$

実回答者全員がAにすると100点となる。

2. 回収率について

		全校
【保護者】	児童・生徒数	445
	小学部 回答率	65.4%
	中学部 回答率	67.0%
	高等部 回答率	57.3%
	回答率合計	63.8%
【教職員】	教員数	167
	回答率	93.7%
【生徒】	対象生徒数	89
	回答率	89.8%

*生徒は中学部 I グループ、高等部の A グループ、B グループの89名を対象

3. 集計結果について

①上位3項目の評点

【保護者 総合】

20 学校は、授業参観や懇談、学校行事などに参加する機会を設けている-----	90.3
6 学校は、連絡帳や電話連絡等で家庭への連絡を適切に行っている-----	89.3
2 子どもは楽しく学校に通っている-----	87.7

【保護者 小学部】

2 子どもは楽しく学校に通っている-----	92.7
6 学校は、連絡帳や電話連絡等で家庭への連絡を適切に行っている-----	92.7
8 個別の教育支援計画を作成するにあたって、先生と相談ができている-----	92.7

【保護者 中学部】

20 学校は、授業参観や懇談、学校行事などに参加する機会を設けている	89.5
17 学校は、学校給食を通して食育の推進に取り組んでいる	87.0
6 学校は、連絡帳や電話連絡等で家庭への連絡を適切に行っている	85.8

【保護者 高等部】

20 学校は、授業参観や懇談、学校行事などに参加する機会を設けている	90.0
6 学校は、連絡帳や電話連絡等で家庭への連絡を適切に行っている	89.5
2 子どもは楽しく学校に通っている	88.0

【教職員】

18 教職員は、児童・生徒に人権意識をもって接し、体罰やいきすぎた指導は行わない	88.8
22 教職員は、学校給食を活用して、家庭と連携して、食に関する指導を行っている	83.6
23 教職員は、保健室や保護者と連携して、児童・生徒の健康の保持・増進に努めている	83.6

【中学部・高等部生徒】

1 あなたは、友だちと、楽しく過ごせていますか	87.0
3 先生は、あなたに、丁寧な言葉づかいて話をしてくれますか	84.1
7 先生は、約束(きまりやルール)について、教えてくれますか	82.5

②下位3項目の評点

【保護者 総合】

13 学校は、子どもが学習しやすいように施設・設備が整えられている	68.2
14 学校は、ICT(パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報機器)を活用した教育活動に取り組んでいる	68.8
15 学校は、地域と連携し(他校交流学习・国際交流・出前授業・移動図書館・外部講師・進路講話など)よりよい教育活動に必要な人材や資源を活用している	71.4

【保護者 小学部】

14 学校は、ICT(パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報機器)を活用した教育活動に取り組んでいる	73.5
21 学校は、ホームページや学校ブログなどを活用して、情報の発信に取り組んでいる	75.1
13 学校は、子どもが学習しやすいように施設・設備が整えられている	75.4

【保護者 中学部】

14 学校は、ICT(パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報機器)を活用した教育活動に取り組んでいる	60.8
13 学校は、子どもが学習しやすいように施設・設備が整えられている	62.6
15 学校は、地域と連携し(他校交流学习・国際交流・出前授業・移動図書館・外部講師・進路講話など)よりよい教育活動に必要な人材や資源を活用している	68.2

【保護者 高等部】

13 学校は、子どもが学習しやすいように施設・設備が整えられている	66.6
15 学校は、地域と連携し(他校交流学习・国際交流・出前授業・移動図書館・外部講師・進路講話など)よりよい教育活動に必要な人材や資源を活用している	68.5
1 学校は、教育方針を分かりやすく伝えている	70.4

【教職員】

3 教科会・教科研などを通じて、各教科で教材などに関して学部をこえて情報交換ができています	66.0
4 事故・災害に対し迅速に対応できるよう、役割分担が明確化され、訓練ができています	69.2
9 学校間交流や居住地校交流において「交流および共同学習」が充実しています	69.4

【中学部・高等部生徒】

2 あなたは、学校に行くのが、楽しいですか	65.0
6 あなたは、担任以外にも、気軽に相談できる先生がいますか	69.5
11 先生は、あなたのことをわかってくれますか	72.5

4. 考 察

【保護者】

保護者総合集計では、21項目中、90点台が1項目、80点台が14項目、70点台が4項目、60点台が2項目となっており、7割以上の項目で肯定的な回答をいただいた。

昨年度、学校運営協議会で結果を報告した際、「各学部で質問内容のとらえ方に違いがあるのではないか」とのご意見をいただき、今年度は学部ごとの集計とした。学部間で比較をすると、「3 授業内容は子どもに合うように工夫されている」の項目で、差がみられた。他学部と比べ、中学部で「あまりあてはまらない」という回答が多かった。その理由として、小学部から中学部へ進学するにあたり、カリキュラムの違い（小学部では基本的な生活習慣や集団生活のルールを身につけることに重点を、中学部では教科別の指導、職業や社会参加を見据えた実践的な指導に、より重点を置いている）やグループ制、教科担当制といった大きな変化が考えられる。総合の評価では、「20 学校は、授業参観や懇談、学校行事などに参加する機会を設けている」の評点が最も高く、評点が90点以上であった。また、昨年度と比較して「17 学校は、学校給食を通して食育の推進に取り組んでいる」の評点が最も向上していた。以下2項目の評点が低かった。

① 13 学校は子どもが学習しやすいように施設・設備が整えられている 68.2

令和5年度より連続して施設・設備の項目が最下位となっている。教育環境の改善については、大阪府に要望しながら校内の整備を進めているところであるが、再来年度（新校開校）までの本校の状況を見据えると、特別教室や更衣室をホームルーム教室に転用することが必要であるため、特別教室や活動場所、休憩場所等の確保がますます困難になる。現在の限られた施設・設備の中ではあるが、児童・生徒が安全・安心に活動するための教育環境整備や、防災に備えるための取り組み、児童・生徒の過ごしやすく学びやすい環境を確保できるような工夫を検討しながら進めていく。

② 14 学校はICTを活用した教育活動に取り組んでいる 68.8

ICTを活用した教育活動としては、高等部では、情報や職業の授業を中心にICT機器を活用した学習が行われている。小・中学部においても、授業の中でICT機器を使用して活動内容の確認や実際の活動の提示、調べ学習や入力作業、写真を撮るなど、ICT機器を活用した学習に積極的に取り組んでいる。またどの学部においても、授業や休憩時間にタブレット端末等に触れる中で、使用上の注意点や約束事、ルールなどについても指導を行っている。「ICT機器の活用」については、授業参観やブログを通して様子を伝えているが、連絡帳や懇談でとりたてて伝える機会がなく、保護者に伝わっていないことが評点につながっていると考察される。

【教職員】

26項目中、80点台が9項目、70点台が13項目、60点台が4項目となっている。昨年度と同様に「18 教職員は、児童・生徒に人権意識をもって接し、体罰やいきすぎた指導は行わない」が最も高い評点となっている。引き続き、学校全体で人権意識を高め、自分や同僚の児童・生徒への接し方をふりかえりながら指導・支援をしていく。「22 学校給食を活用して、家庭と連携して、食に関する指導を行っている」「23 保健室や保護者と連携して、児童生徒の健康の保持・増進に努めている」の評点が向上しており、学校給食を教材とした指導や栄養教諭による給食だより・献立表を通じた家庭との連携、また養護教諭を中心とした組織的な保健・健康に関する情報共有体制や、児童・生徒の健康課題について担任・保護者・養護教諭が協力して対応していること等、学校全体として食育と健康教育に関する取り組みが効果的に機能し、教員の意識も高まっていることが窺える。また、保護者の回答でも「食育」の項目で評点の向上が見られた。今後も保護者と連携しながら児童・生徒の心身の健康について学校全体で取り組んでいく。

以下の2項目は評点が低かった。

① 3 教科会・教科研などを通じて、各教科で教材などに関して学部をこえて情報交換ができていく 66.0

教科会や教科研、夏季研修、小学部教材展示、実践交流会、キャリア研修、ミニ学習会などで、学部をこえた交流や情報交換の場を設定している。今年度は豊中フェスティバルのあり方を見直し、児童・生徒の学部間交

流を活発にしたことに伴い、教員間の交流も増えた。また、実践交流会で使用する題材をテーマに、校内で意見交換する場も設けた。設問の「教材などに関して」という枠がなければ、学年・学部をこえた情報交換など交流の機会は増えている。情報交換が有意義なものとなるよう内容についても検討していく。

② 4 事故・災害に対し迅速に対応できるよう、役割分担が明確化され、訓練ができています 69.2

避難訓練については、毎年度定期的に行っている。今年度の避難訓練では、様々な状況を想定し、避難場所や経路の変更、連絡方法の試行、各役割の動きの確認や役割を入れ替えての訓練を実施したことや、減災対策として大型テレビの固定を行ったこと等により、昨年度よりも評点は向上している。しかしながら、学校の施設・設備面で、全校児童・生徒が集合できる場所が限られていることや校内放送が届きにくい状況、避難経路の確保の問題等があり、安全について懸念される点があることにより順位が低いと考えられる。避難訓練後のふり返りや反省点を挙げながら、課題や問題点を改善し、事故・災害に迅速に対応し、学校の安全性を高められるよう取り組んでいく。

【生徒】

昨年度まで「あなたは病気やけがの時に保健室に行くことができますか」という項目を設定していたが、保健室を利用する生徒が限られていることや、府教委の実施要項に沿わない項目であったため、今年度は内容を変更し「先生はあなたのことをわかってくれますか」という項目とした。

13項目中、80点台が4項目、70点台が7項目、60点台が2項目となっている。

「1 あなたは、友だちと楽しく過ごせていますか」「3 先生は、あなたに、ていねいな言葉づかいで、話をしてくれますか」の項目が上位であった。学校が生徒にとって、単なる学習の場ではなく、友だちや教員との関りを通して、楽しく安心できる居場所として機能していると考えられる。教職員が人権意識を高くもち、生徒に丁寧に接することで、生徒が「自分は大切にされている」と実感できるような関りを一層推進していく。また、その気持ちが友だちに対する優しさにつながるよう指導していく。

「学校生活アンケート」以外に、代表委員会の「学校についてのアンケート」を通して、全校児童・生徒の意見を聞く機会を設けている。以下の2項目は評点が低い。

① 13 学校に行くのが楽しいですか 65.0

「友だちと楽しく過ごせている」「先生が丁寧に接してくれる」という人間関係の満足度が高い一方で、学校生活に魅力を感じていない側面があることが要因と考えられる。また学校が、就労や自立に向けて社会のルールや集団での役割を学ぶ場所であるため、「自由を制約される場所」という側面もある。人間関係を学び経験することができるという土台を強みとして、児童・生徒の主体性を大切に、学校ならではの体験を通して得られる喜びや成長を実感できる場所となるよう、「安心できる場所」であり、かつ「成長を実感できる場所」となるよう、活動内容やシラバスを見直しながら取り組んでいく。

② 6 担任以外にも、気軽に相談できる先生がいますか 69.5

昨年度と同様の順位であった。理由として、担任が全ての相談を受け止めていることで、生徒が他の教員と関わる必要性を感じていない、「悩みは担任へ」という役割が固定化していること等が考えられる。生徒に、担任以外の教員や養護教諭も「自分の味方である」ということが伝わるよう、他学年・他学部との交流を通じて担任以外の教員との接点を増やしたり、保健室の役割を伝えたり、教員間で「学校全体で児童・生徒を見る」という意識を強めるなど、ナナメの関係を作っていくことで、「学校に行くのが楽しい」を向上させることにもつながりたい。

5. 学校運営協議会からのご意見

- 保護者が7割の項目で肯定的な回答なので、学校は自信をもっていいのではないかと。
- 今ある施設・設備を変えるのは容易でないが、取り組めるところで、廊下の電気をLEDに換えたことや季節を感じる装飾や児童・生徒の作品を飾るなどしていることで、学校が明るくなったと感じる。
- 学校の様々な取り組みは評価しているが、活動のねらいについての説明が乏しい。保護者への発信の方法や伝わるような工夫が必要。
- ICTの活動が保護者に浸透しないのは、普段の取り組みや様子を知る機会が参観しかないからだと思う。連絡帳や学年だよりで保護者が授業の様子を知る機会がもっとあればと思う。親子の会話のきっかけにもなる。
- 学校にいる時は連絡帳で様子を伝えてもらえてありがたかった。卒業すると連絡帳がないので、毎日子どもが何をしているか親はわからない。卒業してから考えると、学校は安全安心でありがたかった。
- PTAで豊中フェスティバルに参加していたが、先生方の子どもに対する愛情をとっても感じた。学校のいいところをもっとたくさんの保護者に知ってもらえたらいいのと思う。
- 学校教育自己診断の結果は、保護者に伝わっているのか。考察を見てもらうべき。ホームページだけでなく紙ベースの配付など、みんなが見る発信方法の工夫が必要。
- 教員回答率が100%でないのは何故か。学校を改善するための診断は教員全員で取り組むべきこと。大きな組織なので大変だと思うが、すべきことに対してみんなで取り組んでいける組織であってほしい。
- 教員の情報交換の機会は設定されているが下位なのは、情報交換に対する意識が低いためと考えられる。
- 生徒アンケートでは、回答率が89%となっているが、回答していない生徒の声を聴くことは大切。
- 生徒アンケートを行事の後などのタイミングでとることで回答が変わるのではないかと。後日、行事を思い出して回答するのは難しいと思う。
- 「担任以外に相談」の項目については、慣れた人の方が話しやすいということもある。
- 「担任以外の相談」のところで、対先生だけでなく友だちについても学年・学部を超えて自分に合う仲間を見つけて交流できたらと思う。学校にいる間に人間関係のつくりかたを学んでほしい。
- 代表委員会のアンケートから、みんなが学校を楽しんでいることが伝わってくる。

6. PTA 運営委員会からのご意見

13. 学校は子どもが学習しやすいように施設・設備が整えられている

保護者も参観や、PTAとしては校内安全点検に参加した際に、学校設備の老朽化を目の当たりにする機会も多く、評価の低さに影響しているように思う。

代表委員会のアンケート結果にある、“網戸がない”“時計を修理してほしい”などの要望に関しては、取り組みやすい課題でもあるため、PTAとして協力できる方法があるのではないかと考える。

14. 学校はICTを活用した教育活動に取り組んでいる

参観週間の機会に授業の様子を見させていただくと、各学部で先生方がICTの活用に積極的に取り組まれており、子どもたちの授業に定着していることは明らかであるが、保護者に伝わっていないことはとても残念に思う。

保護者に伝える手段の一つである学校ブログの存在が、未だ認知度が低く、保護者への認知度が高まるよう、マチコミアプリをうまく活用できればと思う。

15. 学校は地域と連携し（他校交流学习、国際交流、出前授業、移動図書館、外部講師、進路講話など）よりよい教育活動に必要な人材や資源を活用している

保護者は参加・見学できる機会がないため、“評価しない”というよりは“評価できない”のではないかとと思う。まず活動自体を知る機会があれば、評価も上がるのではないかとと思う。